



街で見かける「トマソン」という存在に着目し、フィールドワークを通して考察した。そして、トマソンの美的性質を活用した改修の可能性を探る。

なぜ、我々はトマソンに惹かれるのか。トマソンの美的根源は、「機能の微変換」にある。つまり、形態と機能を少しだけズラすことで、改修設計に援用したとき、痕跡を美しく保存することができるのではない。それは、日常的に歴史を体験できるものとなるだろう。また、建築の要素が慣習とは少しだけ異なる働きをすることで、発見的に変化しにくいような空間となる。

私の設計が転用されたとき、機能をさらに変化させ、創造とは異なる使われ方をしよう。つまり、これは想像と痕跡を未来に渡すような改修方法の提案である。



0 トマソンとは



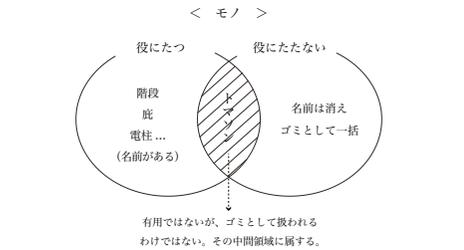
赤瀬川原平 (1934-2014) 「超芸術トマソン」赤瀬川原平より

「超芸術トマソン」とは、赤瀬川原平が新たな芸術概念として定義づけたものである。始まりは1972年、四谷を歩いていた際に発見した階段。登って降りるだけで入口や目的のない、純粋な階段としての機能しか持たないそれは「純粋階段」と名付けられた。つまり、本来の機能を失ってしまった物件のことである。その後も立て続けに、「無用門」や「無用窓」が発見される。それらは、「不動産に付着して美しく保存されている無用の長物」という定義に要約されている。

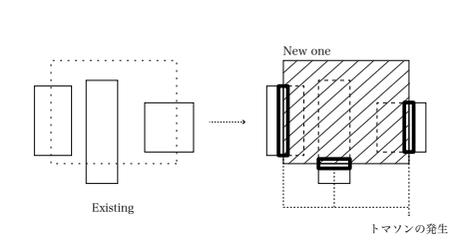
Research - トマソンの分析と事例収集

トマソンの分析を通して、美的性質を改修設計に援用可能かを探る

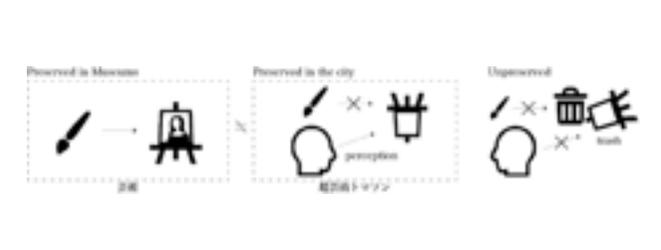
- 1 トマソンの領域 - 役に立つわけではなくゴミでもない
- 2 トマソンの発生 - 新しいものと古いものの境界線に
- 3 超芸術とは - 芸術との共通点は保存された無用さ



トマソンは、役に立つわけではないが、ゴミとして扱われることなく保存されている状態。

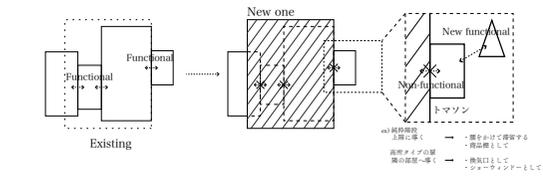


トマソンは、都市の不動産の活断層に沿ってあらわれる。つまり、人工空間に発生する歪みのようなものであり、新しいものと古いものの境界に発生するものである。



超芸術トマソンは、芸術的な意図に關することなく製作されることから非芸術であるが、それが有する「保存された無用さ」という条件は芸術と共通するものであり、この矛盾こそが、超芸術たる所以である。

4 美的根源 - 機能の微変換



そのものの本来の機能は失っているが、それ自体には別の機能が加わっているのではないかと思わせるような矛盾した状態が、心地よい緊張感を生み、美的感覚につながっている。

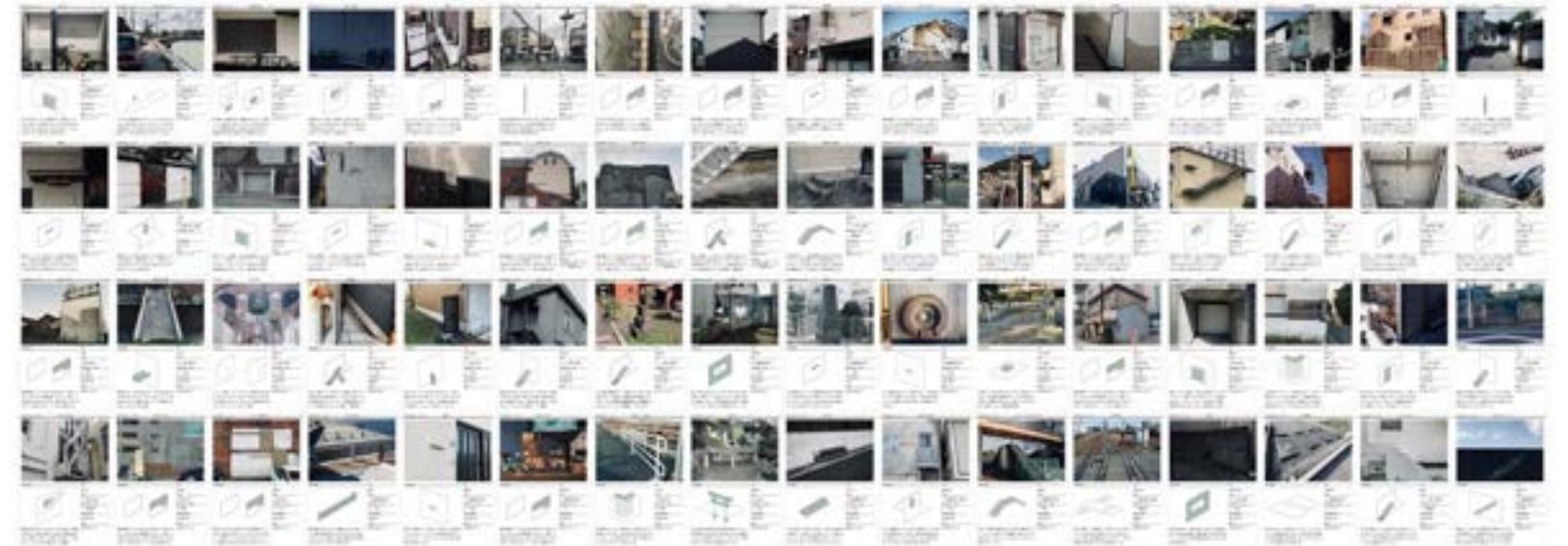
つまり、形態と機能を完全に油断させるのではなく、ほんの少しだけズラすことで、トマソンと同様、心地よい緊張感が生まれ、美しさにつながるのではない。この仮説をもとに、改修すれば、既存の痕跡を美しく保存することができると考えられる。それは、日常的に歴史を体験できるものとなり、また、発見的に空間を体験できる提案である。

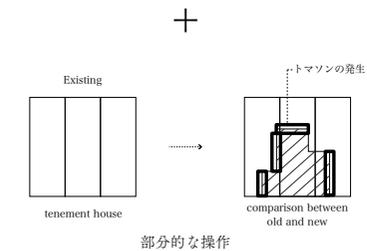
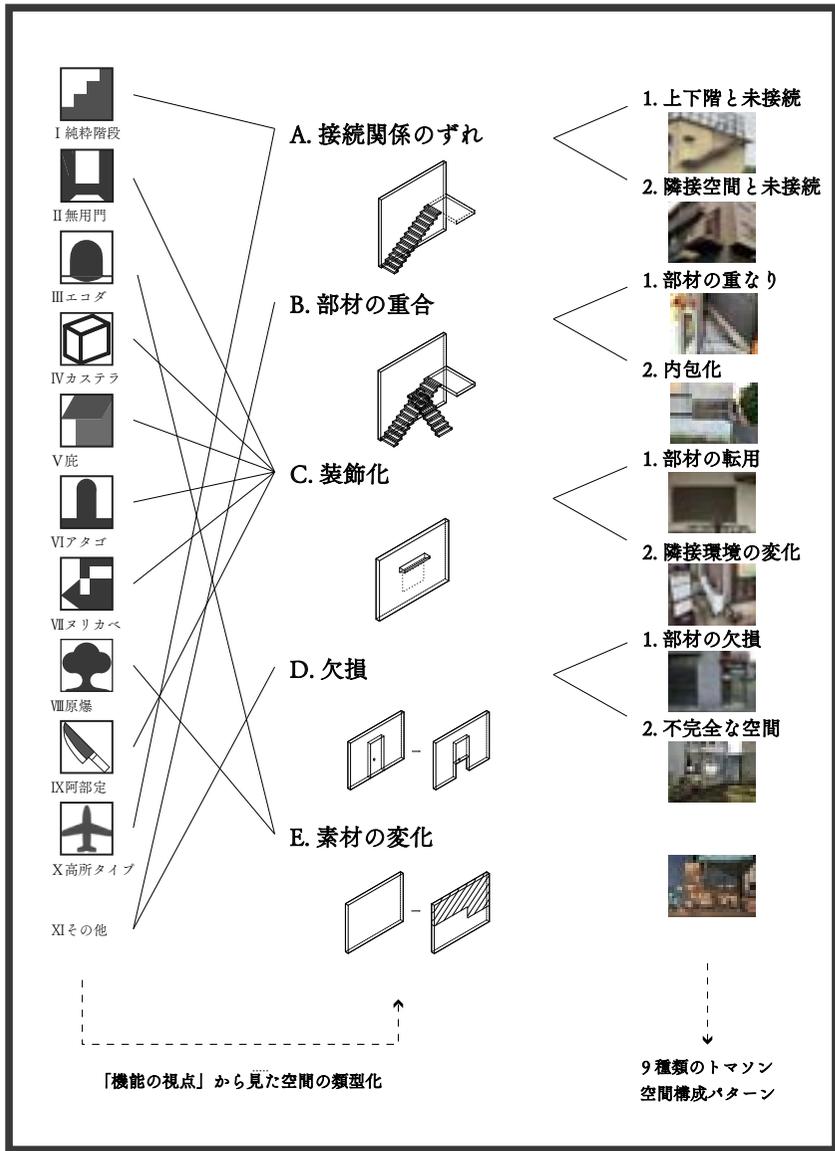
5 赤瀬川原平のトマソン分類

<p>I 純粋階段</p> <p>純粋な昇降運動を強制し、それ以外何の見返りも期待できない階段。</p>	<p>II 無用門</p> <p>さまざまな技法により人の出入りを拒む、困った門。</p>	<p>III エコダ</p> <p>密閉扉物の形状に合わせて丹念に素材を加工、ピタリ閉鎖を齎がれた無用窓。</p>	<p>IV カステラ</p> <p>建物の壁面などに付着する用途不明のオスタラ状団塊、出っ張り。</p>	<p>V 庇</p> <p>本表その下に庇うべき物を喪失したにも関わらず、残存するヒザシ。</p>	<p>VI アタゴ</p> <p>道路・建物の脇に並ぶ用途不要の突起群。</p>
<p>VII メリカベ</p> <p>一見壁と見紛うが、かすかな痕跡から塗りこめられた物の端が伺える。</p>	<p>VIII 原爆</p> <p>撤去された物体が隣接する壁面に遺した原寸大の彫。</p>	<p>IX 阿部定</p> <p>有名な猟奇事件の技法に倣って切断された電柱社、樹木など。</p>	<p>X 高所タイプ</p> <p>機能するには非常機と思われる高みに設置されたドアなど。</p>	<p>その他</p> <p>左 高田のハイバ・トライアングル 中 三菱構造のアスファルト歩道 右 残断壁の無用エントツ</p>	<p>参考 「路上観察学入門」 赤瀬川原平 森高信徳 両作 筑摩書房/1993</p>

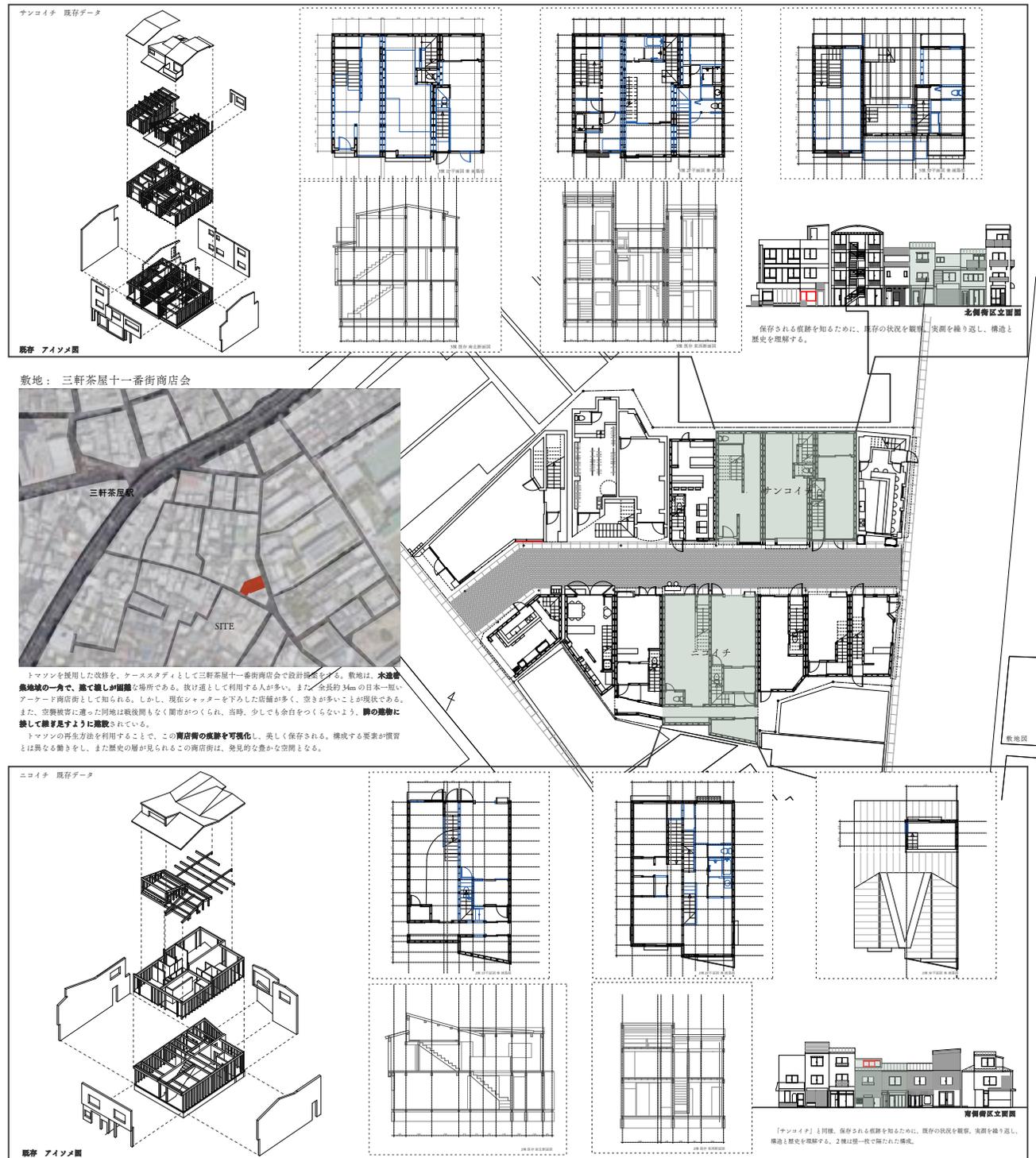
トマソンにはその形態によって細かな分類があり、ほとんどの物件はそのいずれかのタイプに分類される。赤瀬川・藤森・南により分類された、主なタイプが以上の11種類である。

6 フィールドワークを通して得たトマソンの事例収集





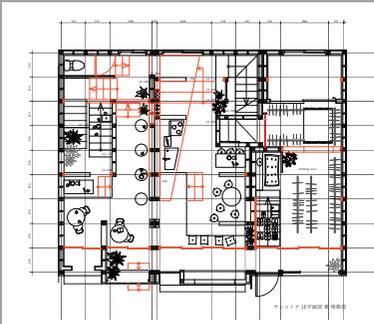
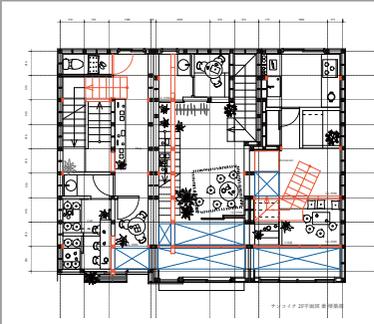
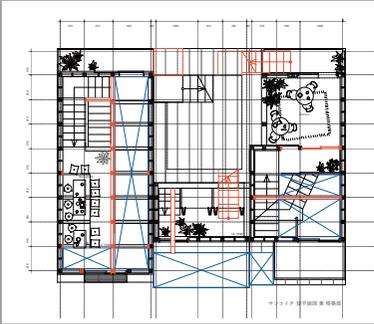
< 残す場所 > と、< 耐震補強を主の目的とする増築、一体化することを中心に行う減築をする場所 > を明確化させる。それによって、既存建築の構成要素が**本来の機能を失って、新しい機能として利用されるような空間**をつくる。これは、小さな操作の連続によって、大きな価値を見出す改修の可能性を示す。



「サンコイチ」



建物と建物の隙間は無く、壁が二重になっていることが特徴である敷地。それぞれの棟は幅が狭く奥行きがあるため、テナントとして使用しやすくなるように、二重の壁を中心に減築している。増築は耐震補強を主目的とし、二重の壁だった境界線に新しい空間ができるよう、部分的に壁を増築する。この部分的な操作で、既存の建物がトマンと同様、機能の微変換が行われ、美しく保存される。



⑥ 新しい壁により変換した、滞留する階段と、商品棚となった階段



④ 減築によって柱が食器棚に。奥の階段は純粋階段と新しい階段が交差する



⑦ 壁の減築により、廊下として機能が変換



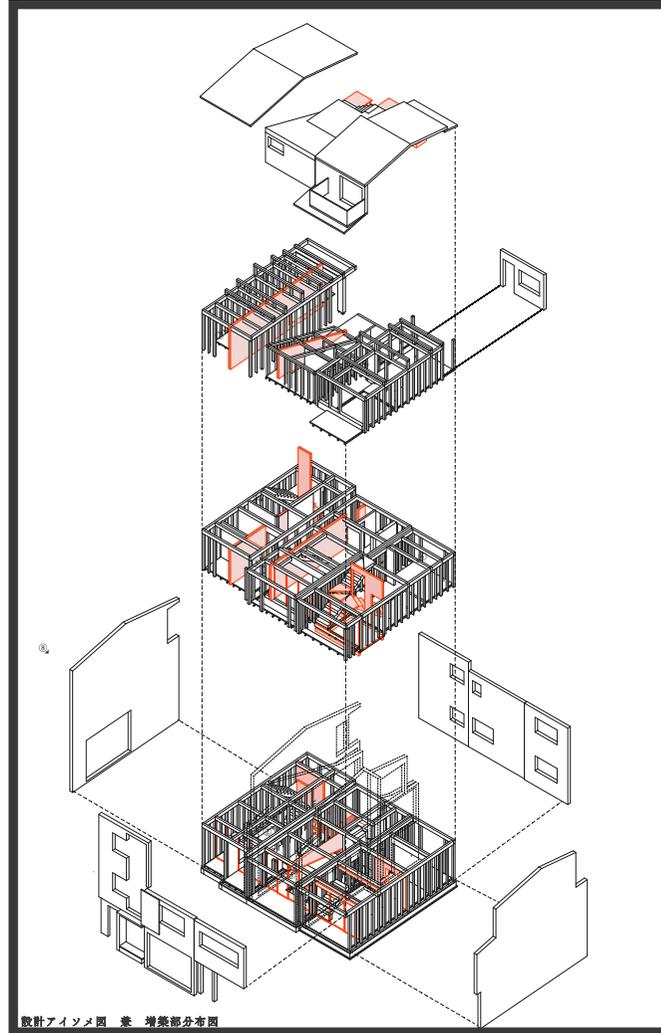
① 一階カフェの様子。客席が客席となり、壁がイスやカウンターとして機能が変換



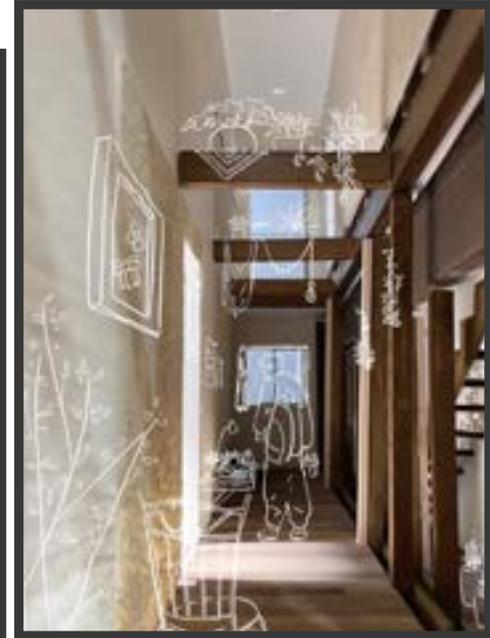
② 増築された壁と手すり
が同じ。床を減築し耐震
補強することで、廊下や
収納スペースとして利用
される。



⑤ 原簿タイプトマンの立面の様子



設計アイソメ図 兼 増築部分布図



③ 2階ショップの様子。壁が換気口として利用されている。階段も商品棚として機能が変換



③ 1階カフェのキッチン。高天井となった1Fは隣の服装の試着室に



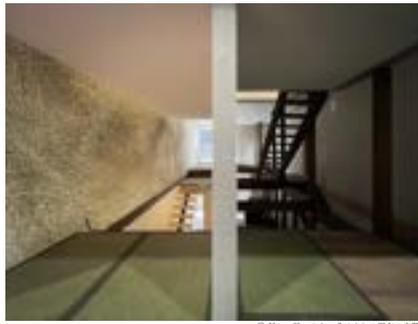
② 上層に導いていた階段が、カフェの一部として機能が変換



「ニコイチ」



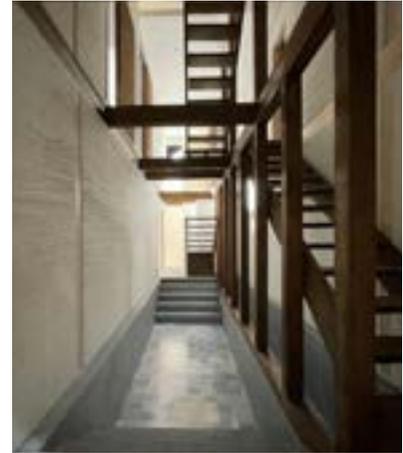
サンコイチと同様、それぞれの様は幅が狭く奥行きがあるため、テナントとして使用しやすくなるように、中央の壁を減築している。増築は耐震補強を主目的とし、中央に新しい空間ができるよう、部分的に壁を増築する。この操作だけで、既存の建築がトマゾンと同様、機能の変換が行われ美しく保存される。



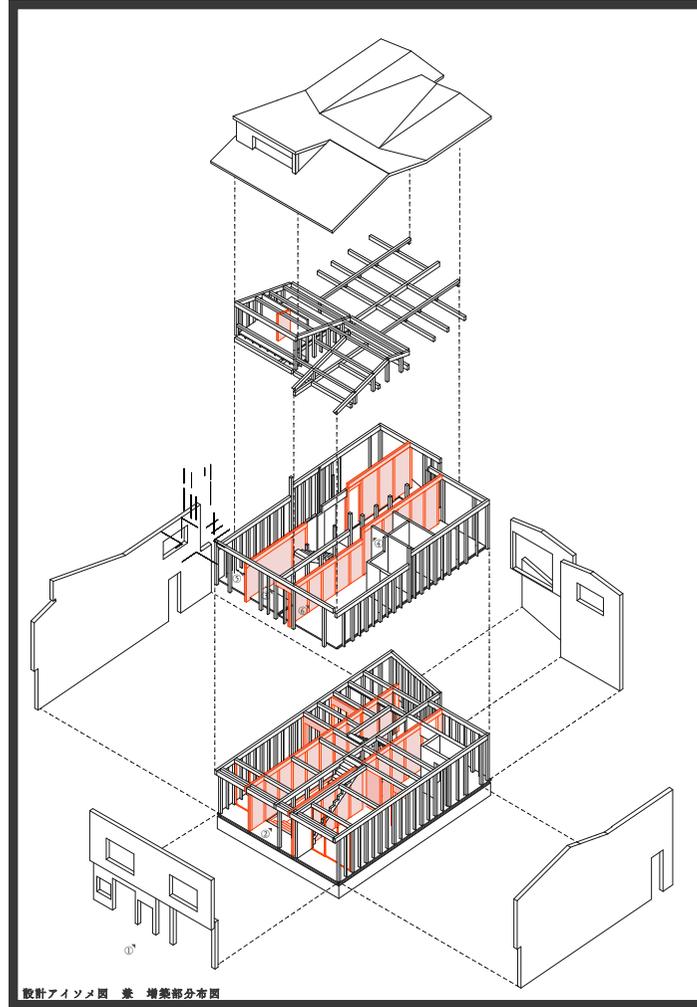
③ 新しい壁により、分けられる既存の空間。



④ 新しい壁と既存の壁の二重構造



⑤ 2階の扉が、隣の扉の扉をちらつかせるような、シャウインディーのように。



⑥ 部屋と部屋をつなげていた扉から、採光や換気口として



⑦ 空間を完全に仕切ることなく、中間領域を作り出す完成たち



⑧ 中央吹き抜け空間。行きにくい基礎の空間も、自転車置き場や、ギャラリーとして利用された場合、アートを置く場所に。

